

総合的な学習における学習者の主体的な取り組みについて

—— 高等学校1年「技と匠を訪ねて」の実践から ——

尾澤 勇・谷口 邦彦・原 寛暁・増井知世子・森長 俊六

本稿は、今年度第2学期を中心に実施した高等学校第1学年における総合学習「技と匠を訪ねて」に関するものである。2000年度7月～12月の約10時間で行ったこの取り組みは、芸術科の5名（工芸・尾澤勇、書道・谷口邦彦、音楽・原寛暁、増井知世子、美術・森長俊六）が担当した。

2003年から高等学校でも実施される総合的な学習は、生徒の主体的な取り組みが前提として求められている。本実践「技と匠を訪ねて」においても、学習者の主体的な取り組みを目指して実践した。しかしながら、必ずしも主体的に学習に取り組めたとは言い難く、教師の支援のどこに問題があったのか、実践をもとに考察する。

はじめに

今、学校現場は「総合的な学習」に振り回されていると言われる^(注1)。高等学校における「総合的な学習の時間」が実施される2003年を前に移行措置として、多くの学校で実施されている。新学習指導要領の総合的な学習の項には、次のようにある。

各学校は、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする。

また、ねらいについては、

(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。

となっている。この2点に共通するのは「学習者の主体的な取り組み」であり、総合的な学習は、学習者の主体的な取り組みをなくして、成立しないと考えられる。

本実践「技と匠を訪ねて」を行うにあたって、学習者が主体的に取り組めるよう配慮してきたつもりである。しかしながら、全員の生徒が主体的に学

習できたとは言い難く、今後の改善のために問題の所在を明確にしておかなければならない。

1. 「技と匠を訪ねて」の設定

本校の総合的な学習の年間計画は、年度当初に教官の希望調査を行い、研究部の調整によって決定される。個人として領域を選択したり、教科やグループで課題を設定できるようになっている。今回の実践は、芸術科（音楽・美術・工芸・書道）の5名が担当したわけだが、尾澤が提案したものを基に、科内で話し合いを重ねながら、生徒の実態に照らして学習内容を絞っていった。

我々が把握する生徒の実態とは、概ね次のとおりである。

いわゆる受験勉強には熱心で、概して目先の利益にこだわる傾向がある。これは高校生としてある程度は仕方のないことだが、これからの変化の激しい世の中を生きていくにはいささか頼りない。

汐見^(注2)は、「脱産業社会型学力、あるいは多文化共生型の学力が要求され始めている」理由として、「終身雇用がなくなることは確実の社会で、次第に見限られてきていて、＜新しい職人型＞の生き方が模索され始めている。オールラウンダーよりも一芸というのが本音」の時代になったと述べる。これまでのサラリーマン社会に求められてきた「まんべんなくできる」学力は、これからの学習者にとって、必ずしも生きる力とはなり得ない状況になってきてい

ることは確かなようである。

一方我々は、最新の技術に依拠した便利な生活をこのまま続けて幸せになれるのか、果たして地球をこのまま維持していけるのかといった現代文明に対する疑念を抱きはじめた。人間が人間らしく生きるために、例えば人と協力して生きることの喜びを感じることや、自然や土に触れて、価値あるものを手作りで、時間をかけてつくり出すといった、いわば「文化」の面が見直されるようになってきた。今日では、このような「文化」を体験し、そこから自分の生き方を見出していけるような学びが求められているのである。

今回取り上げた「職人（匠）」の仕事は、伝統的な分野でのそれを含め、人間の手を通してものをつくるという意味で「文化」と言ってよいだろう。それぞれの職人の長年の経験と知恵は、それぞれの五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）を研ぎ澄まし、独自の「技」として微妙な差異を区別する。生徒は自分たちの選んだ職人を訪ねることを通して、「知識」のみでは割り切れない世界があることを知り、「感性」や「知恵」といった目に見えないものもまた、人間がよりよく生きていく上で必要であることに気づいて欲しいのである。

2. 実践の概要

(1) 実施形態等

2000年7月から12月にかけて実施した内容は、以下のとおりである。

クラス編成については、混乱が少ないであろう、通常の芸術選択クラスとし、教官も同じ選択クラスを担当することにした。結果的には教科の時間を融通できたり、進度を確認できて好都合であった。授業時数は10時間を超えないことを確認して、時間割には組み込まず、不定期に確保していった。講師招聘の関係などで柔軟に対応することができた。

時数	内 容
1	動機付け（VTR 視聴・感想を書く）
2	
3	思い浮かぶ匠を出し合う
4	グループ・取材したい匠を決める
夏休み	グループごとに取材に出かける
5	中間報告（1）—取材の報告—
6	「技」とは何かを考える
7	まとめの方法や意見の妥当性の検証
8	—匠を招いて—
9	まとめの最終確認
10	発表

表1 学習過程

(2) 動機付け

はじめに、VTR「スーパー職人伝」を視聴し、感想を書いた。生徒は、最先端の技術も裏では人間の手仕事によって支えられていることに驚き、職人の長年の経験と知恵に裏打ちされた精緻な技術に感動すると同時に、「自分には無理」「関係ない」といった感想も散見された。

VTR の内容

NHK 制作「スーパー職人伝」

○熟練した職人の技が今日の日本のハイテク産業を支えていることを紹介した番組。驚くべき技の紹介はもとより、職人の生き様、仕事に対する姿勢などが描き出されている。

（1999年夏放映 90分番組を50分に編集）

- 1) H2型ロケットの先端部を製作
(へら絞り加工)
誤差0.05ミリで仕上げる正確さ。
- 2) 化学繊維フィルター加工用工具製作
0.03ミリ角の工具を指先一つで削り出す。
- 3) スクリューエッジ研磨
- 4) IC チップ取り付け金具の金型製作
金型の0.08ミリのカーブを研磨する。
- 5) レンズ研磨
一眼レフペンタプリズムなど
360分の1度という角度を削り出す。
- 6) ワイヤロープ接続
継ぎ目の無いループ状のワイヤロープを
編み込む技術。
- 7) 新幹線の流線型の先端部をハンマーでアル
ミ合金板を打ちだして制作する技術。
(打ち出し板金)
- 8) 世界一真っ直ぐな4直角定規製作
1万分の2ミリ以内の精度を削り出す技術。

生徒の感想

①今日ビデオを見て思ったことは、職人の人々の技術が今日の日本の産業を支えているのだなということです。今までぼくは新幹線の先端部とか、船のスクリューとか、大きな物は全て機械で製造されているものだと思っていました。その他にも、化学繊維なども職人の技術によって作られていると知って驚きました。まっすぐで直角な定規を作るのがそんなに大変なことだということも知らなかった。10000分の1ミリを削れるなんてすごいと思った。そうして作られ

た定規が、現在ある物の内のほとんどの物が作られる時に利用されているということもわかった。今までは、今の時代は職人なんていなくても、ほとんど全てのものが機械さえあれば作れるものだと思っていたけど、今日のビデオを見て、職人がどれだけ大切な存在かわかりました。

・一男子 M, I

②何に関しても、一つの事を極めるという事は人間が行うことの最も難しいことの一つだと思います。極めるということは、その一つことに集中し、またそれを何十年も続けていかなければできません。しかも、今日見たビデオの職人の方々は表に出るような華々しい仕事ではなく、誰も気づかないような地味な仕事をされています。こういった地味な仕事は認められることも、そう多くはないだろうし、それを何十年も続けることは大変な事だろうと思います。最近はそのような地味な仕事は軽視されていますが、しかし、そういった仕事が結局は華々しい仕事を支えているのです。地味な仕事を完璧にこなすことで今のハイテク産業は成り立っているのだと思います。僕も、自分が何の仕事をするのかはまだわかりませんが、その仕事が地味だろうが華しかろうが、その仕事を極めてみたいと思います。現在は転職がはやっていますが、一つの事を何十年も続け、極める事も重要なことだと思います。

・一男子 T, Y

③1万分の1ミリとかの大きさを、その勘によって調整しているのはすごいと思った。ほんとに勘だけで作るという大変な仕事だ。新幹線の先端部が、人の手によって作られているのは初めて知った。あの微妙な角度をハンマーによって作っていた。匠というのはすごいと思った。その自分のやっている事を頂点に立つぐらいまで極めて、それでもまだ納得いかないレベルの高さには感動した。自分もそんな風になれたらいいけど、いらついて出来ないと思う。それだけ信念とやる気と根気がある仕事ばかりだった。人が「これは芸術品だね」と喜んでくれるのが嬉しいといていた船のスクリューのエッジを削る人は、それだけのために自分を捧げていて感動した。やっぱりそういう並大抵の人にはできない仕事の人には誇りを持って生きていけると思った。だから人間はそういう事(何でも面白いから)を一つでも持っていると思えば強いと思った。今、資格を持っていても仕事に就けない人がた

くさんいる。資格を持っている事も大切だけど、匠になれるような事をやりたい。これからは匠がトップに立つ時代である！匠を訪ねる時にはじっくりと見ておこうと思った。そして、自分も真似できるものはしておこうと思う。

・一女子 H, K

④スゴイって思ったけれど、特に興味はない。私はそういう細かい作業が命の職業には向いていないし、将来そういう職人さんの弟子になろうなんて思っていないので。ものさしの人なんて、私生活までまっすぐなんてスゴイし、それにしても、スーパー職人になれた人は恵まれますね。だって、世の中には自分の好きな職業には就けない、やりたいことも分からない・・・。というような人もいるのに、就いた職にとっても合っているばかりか、誇れる技術まで持っていて、一生頑張れる。その道一筋！で生きられてとても幸せだと思う。私にもそういう天賦の才能とかあったらいいのに・・・。

・一女子 R, M

(3) 課題の選択

VTRを通して読みとれるのは、どの匠も、それぞれの五感を駆使していることであろう。「五感を使う」ことを条件に、身近にいる匠を出し合うことにした。

食品関係についても当然いくつか上がったが、ひとまず、ここでは省くことにした。(実際にはいくつかのグループが取材することになる)

庭師	傘職人
宮島の木彫り	靴職人
織物を織る職人	鞆職人
木彫り職人	帽子職人
金属加工	造船
旋盤職人	宝石研磨
鋳物師 (いもじ)	ジュエリーデザイナー
石工 (いしく)	カーデザイナー
伝統工芸品を作る人	服飾デザイナー
瓦職人	絵画修理
蒔絵職人	建物の音響設計
うるし塗職人	スピーカー作り
ガラス職人	調律師
紙漉き職人	楽器職人
筆職人	オルゴールを作る人
雛人形を作る職人	香水を作る人
欄間を作る人	ソムリエ
鍛冶職人	杜氏 (とうじ)
仏壇職人	カッタを作る人
竹細工職人	刃物を加工する職人

人形職人	刃物を研ぐ人
家具職人	刀鍛冶
研磨師	提灯を作る人
花火職人	剣道防具制作
そろばん職人	仁方のやすり
針の中の	弓を作る職人
不良品を探す職人	陶芸家
ちっちゃい	織物を作る人
ランドセルを作る人	

表2 生徒があげた匠一覧

この一覧を基に、グループ分けと、取材したい匠を決定した。大半のグループは興味・関心で選択していた。

(4) 探究活動

必要な資料集めや取材、その方法・内容はそれぞれのグループで異なるために、通常の授業時間の中では活動を把握するのは難しい。授業の合間をぬって取材に出かけるということにも無理がある。そこで、夏休みを使うことを前提として、準備を進めた。

資料集めは、図書室での検索やインターネットが中心となるが、それぞれ使うことのできる日をあらかじめ知らせておいた。

また、取材にあたっては、訪問日時と内容を箇条書きした用紙を提出するにとどめ、教師が先回りして連絡を取ることは避けるようにした。

(5) まとめ作業・妥当性の検証

教科学習、例えば音楽の「より質の高い演奏を目指そう」は、説明しなくても共通理解が得られるわけだが、本実践の場合、なぜこのような学習が必要なのかは理解されにくい（生徒の感想にも表れている）。したがって、生徒が主体的に学習をしようとするとき、その原動力となるものが必要である。何を目標そうとしているのか、学習することによってどんないいことがあるのか。理屈抜きで「調べてみたい」と思うような、あるいは生徒を揺さぶるような問題提起がなくてはならない。

生徒が進んで「調べてみたい」と思うような学習は、一つ一つの課題を解決していく「達成感」の積み重ねによって初めて可能であり、それは教師の的確な発問なり問題提起に支えられている。つまり、教師の的確な発問なり問題提起によって、課題は次第に掘り下げられていくことになる。課題の追究がなされないような学習は、生徒のノリも悪く支援が難しくなっていく。これは総合的な学習においても同じことが言え、テーマ選定の際に、課題の追究が可能かどうか、追究するに値するものであるかどうかを見極めることが肝要だと考えている。本実践の問題提起の一例では、「技（＝腕前）とは何か」とい

うことがある。「技（＝腕前）」の違いは、職種によって共通する部分もあるだろうし、異なる部分もあるだろう。その点を追究することで、学習の深まりと主体的な取り組みが期待できよう。

また、生徒主体の調べ学習は、生徒の思いつきの活動であってはならない。教師は生徒の活動に目が届きにくく、内容を把握するのが難しい。従って、方法や結果の検証を通して、活動の妥当性を互いにチェックし合うことが必要であろう。その方策としては、

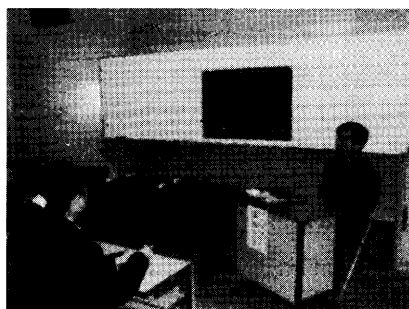
1. こまめに中間発表会を設定し、生徒が互いに意見交換を行う。
2. 専門家（ここでは職人）を招いて、妥当性を検証する。
3. まとめの方法を工夫する。

などが考えられよう。

中間発表会では、調べた内容を報告するにとどまらず、発表の中味を全員で共有していくことが大切であり、そのような発表会になるよう工夫が求められる。また、講師を招聘した場合についても、主役はあくまでも生徒であり、生徒の活動があって、その活動をサポートする講師でなければならない。一方的に話を聞く活動では、一定の学習効果は期待できないだろう。今回の場合は、意見の妥当性を検証するという意義付けで、講師を招聘した。

クラス	匠
音楽	ピアノ調律師
美術	交渉中
工芸	バイオリン制作・修理
	グラフィックデザイナー
	NHK 広島放送局記者
書道	毛筆刷毛製作所代表・広島県議会議員
	美術刀剣研磨師

表3 授業に招聘した匠一覧



授業の様子

まとめ作業・妥当性の検証段階での学習指導案
(書道クラス)

学習過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入 展 開 (8分)	○学習の準備をする。 ○担当のグループは、自分たちの招いた匠を紹介する。 (美術刀剣研磨師) ○担当のグループは、匠との交流の経過を説明し、取材した結果を中間報告する。	・学習内容の説明と講師を紹介する。 ・プロフィールを補足する。 ・苦勞した点などを引き出すようにする。
(5分)	○特に刀の材質によって地鉄(文様)を研ぎ分けることについて紹介する。	・技(=腕前)についてポイントを絞るようにする。
(5分)	○疑問点は質問する。	・仕事を施された刀の違いを何人かの生徒に確かめさせる。
(15分)	○他のグループは、取材から導き出された結果を中間発表し、匠に意見を求める。	・どの職人も、知識に加え、五感を駆使して仕事をしていることに気づかせる。 ・職種は違って、技(=腕前)に共通する点はないか考えさせる。
(5分)	○匠の今後の夢や、こだわりについて話を聞き、疑問点があれば質問する。	・これまでの経験や勘から導き出された「知恵」に気づかせる。
ま と め (5分)	○学習したことをプリントに記入する。 ○生徒の代表がお礼を述べる。	・プリントを回収する。

(工芸クラス)

学習過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入 (3分)	○学習の準備をする。	・学習内容の説明と講師を紹介する。
展 開 (8分)	○(デザイナー)(放送局記者)の方からそれぞれの職種についての説明をしていただき、それを聞く。	・匠の特性を生徒に伝えるように努める。
(20分)	○各グループごとに、それぞれの匠との交流を説明し、取材から導き出された結果を簡単に発表し、匠に意見を求める。 ○疑問点や質問を出し合う。	・発表内容・発表方法について妥当性の有無を生徒自身に気づかせる。 ・技(=腕前)についてのポイントを押さえているかを気づかせる。
(10分)	○それぞれのグループのまとめ作業を行う。 ○(デザイナー)(放送局記者)に各グループ回っていただき、プロとしてのアドバイスをいただく。 ○匠のアドバイス内容をプリントにまとめる。	・(デザイナー)(放送局記者)の匠の「知恵」や「工夫」に気づかせる。
ま と め (5分)	○生徒全員でお礼を述べる。	・プリントを回収する。 ・次回以降の連絡を行う。

3. 実践のポイント

(1) 情報収集・活用能力の育成

匠に取材するためには、それぞれの職種について予備知識を得なければならない。夏休みにおける活動は、そこから始まった。書籍や、インターネットのホームページを使って、手分けしながら作業にあたった。

生徒が苦勞したのは、匠に会うための手続きである。まず、取材したい匠がどこにいるのかを知らなければならない。電話帳で調べるグループ、知り合いに紹介してもらうグループ等々、様々であったが、教師が紹介することは、極力しないよう心がけ、生徒が相談に来たときに限り、アドバイスするに止めた。

中には、花火職人のように、この時期はかき入れ時で、とても高校生の相手などしてられないと断られたケースもあった。

人数が多い班だったので、題を変えたりいろいろあったが、何とか匠に取材できた。(書・男)

鳥取まで匠の取材に行ったこと。取材するときにどんな質問をするか迷った。(美・女)

さらに、取材するにあたっては、失礼のないよう礼儀を尽くすよう指導した。電話の応対に気を配る、礼状を書くといったことは、生徒の日常ではあまりない経験だったと思われる。

取材に行くにあたって、失礼のないように十分考え、慎重に質問した。(音・男)

(2) 課題の深化について

「技とは何か」というテーマを追究していくことは、それぞれの匠の仕事に対する姿勢を知ることにつながるだろう。

授業の実際 1

T：技と匠の「技」って何だろう？
(何人かに答えさせてもいい)

T：辞書にはどう説明があるか見てみよう。今、我々が問題にしようとしているのは6番目の意味だね。いくつか意味がある中に、「腕前」という語があるね。「腕前」って普段どういうふうに使う？

S：「腕前がいい」「ほれほれする腕前」・・・
T：同じ職種、同じ経験でも「腕前」の差というものが生まれるのはなぜだろう？ただ才能という漠然とした言葉では表せない何かがそこにあるからではないだろうか。職種によっても当然違いがあると思う。その職種・匠によって腕前のとは何か、仮説をたてて、もう一度匠に取材してみよう。

長い年月をかけて打ち込んだ成果が、僅かな違いとして表れる。だが、その違いはその世界では計り知れない差となって、匠の生き方さえも左右する。「技」を通していろいろなものが見えてくるはずである。

一人前になるまでに10年くらいかかるらしい。僕は少しやってできなかったら投げ出すことがあったが、長い時間かけていけば、できるようになるのかもしれないと思った。(美・男)

わかったとは言えないが、少なくとも、“技とは何か”そもそも“技とは？”ということに触れることができてすごくよかった。なぜなら移り変わっていく世界の中で、昔からの「文化」を伝承している人間が、どのような思想と信念で自分の道を歩んでいるか知って、考えることができたから。(書・男)

後者は、刀工について調べるうちに、刀剣研磨師を知り、かなり積極的に活動を行った生徒である。匠の自宅に何度か足を運び、研磨の「技」について詳しく取材している。授業にもその匠を呼び、テーマの掘り下げはかなりできたと思われる。「技とは何か」を追究していくことによって、文化の伝承ということの大切さにも気づいたようだ。この生徒は今回の授業の意義について次のように書いている。

日本の文化を考えること。(それを伝承していくことにどのような意義があるのか、そんなことは思ってもみないことだった)(書・男)

(3) 自らの生き方を考えること

匠の生き方を通して自らの生き方を考えることは、今回の学習の大きな目標であった。

いわゆる職人に限らず、あらゆる職業は、こだわりや思い入れによって支えられていると言えなく

もない。生徒たちのほとんどは、いわゆる職人にはならないけれども、これからの生き方と決して無関係ではないだろう。授業での意識化は不十分であったが、自分にも生かせることに気づく生徒もいた。

これは授業に招聘した刀剣研磨師 M 氏と、生徒のやりとりの一部である。

授業の実際 2

S：「研ぎの作業はどの時点で終わりなのですか？」

M：「妥協して終わりにするってことだな。研ぎに終わりはないんだ。今の自分の力ならここまでってことだ。だから常に妥協点を高くすることを考えてるよ。」

匠の取材では、こうした話が随所で聞けたはずである。

匠は一つのことにとこだわって、その技を磨いているのでその一心を貫く生き方を学びたい。
(美・男)

「何かものを作る」「人に使ってもらう」ということがとても興味深く、深い心と相当な技は必要なことだと思った。この心は生き方の参考になり得ると思う。(書・女)

一方で、自分の生き方とは切り離して考えようとする生徒もみられた。

特に思いません。こういう生き方もあるんだなあと素朴に思った。(音・女)

所詮は他人の生き方なので参考にしたくない。
(音・男)

4. 反省と課題

(1) 教科学習との関連について

新指導要領では「地域や学校の特色、生徒の特性等に応じ」と前置きしながらも、活動の内容について、次の3点を示している。

- ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動
- イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定し

た課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動

ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

一方、本校の総合学習の柱は、「国際理解教育」および「情報教育」の2点である。これは、1997年度からの3年間に及ぶ研究開発に際して設定されたものである。実際には、これらの目標を積極的に盛り込んだり、教科内容に力点を移したりしながら、「教科発展型」「教科クロス型」「特別活動関連型」などの実践を行っている^(注3)。昨年度、谷口が担当した「文字を飾ろう」の実践^(注4)は、数学科、美術科、国語科書写の「教科クロス型」であり、本「技と匠を訪ねて」は、「教科発展型」として位置付けられよう。

総合的な学習は、各教科とは独立した位置付けではあるものの、実際には、内容的にも形態的にも各教科と何らかの関連を図らなければ、生徒は混乱してしまう。課題の追究の結果、特定の教科内に収まったからといって総合的な学習ではないという意見もあるが、学習者主体の学習を進めることが主眼であり、結果のみにこだわることがあってはならない。

(2) テーマの設定について

奈須^(注5)によると、「総合なら何でもいいのではない。総合学習への関心が高まる中で、とにかく総合的でありさえすればいいようにいう人もあるが、それは間違いである。」とし、総合的な学習に限らず、カリキュラム編成には「文化遺産の継承・発展」「社会現実への対応」「子どもの求めの実現」の三つが欠かせないという。

今回の実践の主眼の一つは、匠の生き方を通して自己のこれからの生き方を見つめることであった。高校生にとって、自分の進路を考えることは、切実な課題であろう。問題なのは、それを課題として授業で扱うことがどうかということである。主体的に取り組めなかった生徒の中には「言われなくても自分で考える」「他人の生き方なんか参考にしたくない」といった拒否反応が終始付きまとっていたように思われる。

学習者を職人にしようというものでないことは明らかである。職業に就くつかないを別としても、どのように生きていくか、自分の将来をどう切り開いていくかということは、すなわち、自己形成、自己実現に繋がるものだろう。そういった自己形成力を身につけていくための学習だった。

学習者が楽しく学習に取り組むということは理想であるけれども、高等学校においてはそれだけでは学習は深まらない。今回は少し強引な課題の提示に問題があったにせよ、教師がある程度お膳立てすることはやむを得まい。

(3) 成果の発表

本実践では、中間発表会をできるだけ頻繁に持つようにして、進捗状況の確認と、情報や意見を全員で共有できるよう配慮した。

結果として、最終的なまとめ（これは様々な方法を生徒に選択させた。例…模造紙にまとめる。レポート形式。ホームページ作成など）は、中途半端なものに終わってしまった。新鮮味がなくなってしまったのか、それとも、匠から感じ取ったものを目に見える形にするのは難しいということなのか。

「技」はものではないので、何とも表現しにくい。(書・女)

まとめの形式を統一するという事も考えられるだろうが、何よりも、最終的に、こんなものを作ろうという展望を生徒に持たせることができなかつたことは、反省点としてあげられよう。

おわりに

生徒の主体的な活動を学習の中心に据えて進めていくという形態は、本校でも従来から各教科において行われている。しかしながら、総合的な学習に限

らず、教室を出て様々な学習活動をする際に、果たして生徒は主体的に取り組んでくれるだろうかという事は常に気にかかる。今回の実践では、教師の思いと学習者の思いにズレがあったように思われる。今後はこのズレを最小限に止めるような手だてを講じたい。

課題の設定において、学習者の願いをどう生かしていくのかということ、しばしば問題にされ、重要なことだと思うが、学習者が主体的に取り組むかどうかは、課題設定だけが問題ではなく、学習が深まっていくかによっても左右されることがわかつた。

主体的な学習を行うために、総合的な学習だから特別な形態を考えるのではなく、教科の学習においても、主体的な学習に改善していかなければならない。

注


- 1) 「高校生の総合学習と学び」森下一朗 晩聲社 2000.5 p.3
- 2) 汐見稔幸「学力『低下』問題と新たな学力形成の課題としての総合学習」『教育』2000年2月号 国土社 p.12
- 3) 本校2000年度教育研究大会要項 p.76~81
- 4) 『研究紀要第46号』広島大学附属中・高等学校 2000.3 p.49~58
- 5) 奈須正裕『総合学習を指導できる教師の力量』明治図書 1999.6 p.21

参考文献


- 高久清吉「『哲学のある教育実践』—総合的な学習は大丈夫か—」教育出版 2000.4

生徒作品

子ば打ち部の人
出るは物の種類

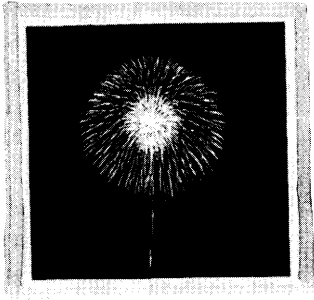


子ば打には、「一番物」「二番物」「三番物」がある。
 「一番物」は打た子ばは真、自分で見方がかり、最も余りやすい。
 東京の更科子ばがそれである。
 「三番物」は打た子ばは色が濃くにおいがあって、食感が悪い。
 田舎子ばと呼ばれる子ばは二番物や三番物を使っている。
 (詳しい説明は次のページ参照)
 私が取材した「出る子ば」は田舎子ばのなかでも、黒い子ばだ。だが
 市道では審のついでで、白くはなっている。
 訪問した「昔ながら一軒」では一番物と二番物の間の物を使っている。
 使う物の種類は出る子ばの店それぞれで異なる。
 よく「出る子ば」というのは子ばの種類の名詞ではなく、
 今日では「四子ば」という食べ方の名前となっている。



この作業も十分に終えなければならぬ。
 空気に触れる面が多くなるから、
 できるだけ作業を早く終わらせる。
 まいていくのがたまたまで、まきつける。
 空気に触れる面を少なくし、乾かさないよう気をつける。
 しっかりお人様にまきつけて、お供えをおさめて前にこぼす。
 最終的には四角になるようにする。
 この技術をお身に付けるのに3か月かかる。

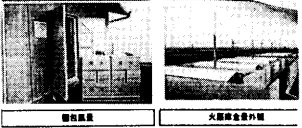
煙火の花道



※ 花火業界では、花火のことを
「煙火」とよびます。

金次-フ. 河内. 飯田

保管...この様に様々な工程
 成した後は箱に梱包され、出荷
 は花火倉庫で使われるまでの
 火薬庫で保管されます。



花火新生 ~新作花火のぞろぞろ~

「一言台」
 試作「煙」を
 地面上で燃焼させ
 毎分燃焼時間を調
 整する。

「自然燃焼実験1」
 自然燃焼実験の試作
 を専用の打ち上げ筒で角
 打ちし、大気中の燃
 焼状態を観察する。

「自然燃焼実験2」
 自然燃焼実験の試作
 を専用の打ち上げ筒で角
 打ちし、大気中の燃
 焼状態を観察する。

「試作打ち上げ」
 YEAH!!!